

## 秦野霊園計画

## 付帯事項付け許可

県森林審答申

## 「影響最小限に」

秦野市渋沢の八国見山(319坪)南側区域での霊園計画を巡り、県森林審議会の宮林茂幸会長(東京農大教授)が今月14日付で、開発許可を黒岩祐治県知事に答申していたこ

とが分かった。ただし答申では「貴重な動植物の生息地への影響を最小限にとどめるよう配慮する」「開発後は貴重な動植物の生育環境を保全するなど、生物多様性の復元に最大

限配慮する」ことを求める、2項目の付帯事項を付けた。

川町)から申請されていた、林地開発の許可手続きを進める。

周辺は、落葉広葉樹のクヌギ、コナラが群集し、1990年の県環境評価書で「極めて良好な自然緑地で植生

的にも重要」と、最高のAランクに評価された。国蝶オオムラサキの県内最大級の繁殖地であり、国内では八国見山でしか生育していないとされるカンアオイ属の「ナカイカシアオイ」など希少種、貴重種を含めた動植物の宝庫となっていた。

同法人の計画では、八国見山の山頂付近から尾根のかけを削って

谷を埋め立て、緩斜面の霊園を造成する。このため、先月13日に開かれた同審議会(委員15人)では、出席した委員13人中7人から開発に慎重な対応を求める発言があり、こうした意見を受け、開発許可の答申では異例の付帯事項が付けられた。

しかし、霊園の計画面積が広いうえ、造成に伴う大量の樹木の伐採で乾燥化が進み、動

植物の生息・生育環境の悪化は避けられない。また、いったん破壊された生物多様性の再生は極めて難しい」というのが、動植物専門家の共通認識となっている。

霊園開発に反対する

住民グループ「渋沢丘陵を考える会」(日置乃武子代表)や自然保護団体は、答申の撤回と審議のやり直しを求めて、宮林会長への抗議文と黒岩知事への要望書を近く提出する。

【高橋和夫】

開発許可を黒岩祐治県知事に答申していたこと

とが分かった。ただし

答申では「貴重な動植物の生息地への影響を最小限にとどめるよう

配慮する」「開発後は

貴重な動植物の生育環境を保全するなど、生物多様性の復元に最大

限配慮する」ことを求める、2項目の付帯事項を付けた。

川町)から申請されていた、林地開発の許可手続きを進める。

周辺は、落葉広葉樹のクヌギ、コナラが群集し、1990年の県環境評価書で「極めて

良好な自然緑地で植生

的にも重要」と、最高のAランクに評価された。国蝶オオムラサキの県内最大級の繁殖地であり、国内では八国見山でしか生育していないとされるカンアオイ属の「ナカイカシアオイ」など希少種、貴重種を含めた動植物の宝庫となっていた。

同法人の計画では、八国見山の山頂付近から尾根のかけを削って

谷を埋め立て、緩斜面の霊園を造成する。このため、先月13日に開かれた同審議会(委員15人)では、出席した委員13人中7人から開発に慎重な対応を求める発言があり、こうした意見を受け、開発許可の答申では異例の付帯事項が付けられた。

しかし、霊園の計画面積が広いうえ、造成に伴う大量の樹木の伐採で乾燥化が進み、動

植物の生息・生育環境の悪化は避けられない。また、いったん破壊された生物多様性の再生は極めて難しい」というのが、動植物専門家の共通認識となっている。